



駅前再開発工事の記録写真より、しまなみ交流館の建設。1998年4月17日・土本寿美氏撮影

市史広報

第18号

平成尾道30年史

I 平成元年 1989～平成10年 1998

◆メタモルフオーゼ尾道…

一時代前となった平成―激動の時代だった昭和のちょうど半分ほどの時代でしたが、顧みると二度の大震災を始めたとして、国内外での様々な出来事が濃密に思い返され、昭和同様に激動であると共に、混沌を抱えながら前へ進んだ時代だったように思われます。

尾道にあっても平成時代は大きな変わり目となった時で、尾道駅前の再開発はその最たるものとして記憶に刻まれ、今に見る風景に接続します。

令和となった今、尾道の顔となる中心市街地(尾道旧市街エリア)はめまぐるしく日々変転し続けています。押し寄せる観光客による賑わいとは裏腹に、本来的な尾道らしさ、尾道の街が持つ味わいや深みも、どこか過去形のようになってしまった印象も否めません。良くも悪くも変わり続ける「メタモルフオーゼ尾道」―それを最も象徴した時代である平成尾道を全4回シリーズでプレイバックしてみます。

平成尾道30年史年表 1989～1998

平成元年(1989)

- ▼'89海と島の博覧会・ひろしま開催(尾道会場)。
- ▼水尾町の「水祭り」が半世紀ぶりに復活。

平成2年(1990)

- ▼大林宣彦監督の尾道映画「ふたり」ロケ。
- ▼浄土寺下に高層マンション建設計画で「尾道の歴史的景観を守る会」結成。

- ▼尾道市立図書館が移転新築オープン。

平成3年(1991)

- ▼台風19号通過で暴風による被害甚大。

平成4年(1992)

- ▼県営尾道工業団地完成。

平成5年(1993)

- ▼新尾道大橋起工。
- ▼尾道ケーブルテレビ開局。

平成6年(1994)

- ▼猛暑と渇水で時間給水を実施(70日間)。
- ▼第12回アジア競技大会広島開催。

平成7年(1995)

- ▼阪神淡路大震災で尾道市からも救援派遣。
- ▼尾道バイパス平原インターチェンジ開通。

平成8年(1996)

- ▼市の花に「桜」を選定。
- ▼JR東尾道駅開業。

平成9年(1997)

- ▼駅前再開発ビル起工。
- ▼瀬戸田町に平山郁夫美術館開館。

平成10年(1998)

- ▼尾道市制施行百周年記念事業実施。
- ▼台風10号の豪雨で美ノ郷町本郷で土砂災害。

久保三丁目、尾道市立大学美術館の前身が、「尾道白樺美術館」であつたのも昔話になつてしまった感があります。以前に巻き起こった高層マンション建設計画と、歴史的景観を守る観点で民間有志が立ち上がり、それを阻止した経過については、更に遠い昔話となつてしまいました。

平成二年（一九九〇）五月、浄土寺下の国道沿いに位置する駐車場に、十三階建て高層分譲マンションの建設計画が明らかになりました。歓迎する意見の一方で、歴史的な景観が損なわれることを危惧する市民から、当時の博田東平尾道市長に対して歴史的景観保全の要望書が提出されると共に、「尾道の歴史的景観を守る会」が結成され、建設反対の運動が展開されることになりました。

守る会は業者から提示された三億五千万円での買い取りを目ざして、募金活動に着手。その年の九月には一億円を超える募金を集め、九五三八名の署名が集まりました。しかし業者と交わされた最終期日までのタイムリミットが迫る中で目標額には達せず、守る会は尾道市に不足分の支援を要請しましたが、尾道市からの回答は、「市の財政構造上、土地買収は困難」というものでした。



尾道白樺美術館の建設以前。平成 8 年（1996）の撮影。

尾道白樺美術館～大学美術館へ至る経過

平成 8 年（1996）…市制施行 100 周年に向けて開館を目ざして尾道白樺美術館開館財団設立始動。▼平成 10 年（1998）10 月 27 日…尾道白樺美術館竣工式。▼平成 11 年（1999）4 月 28 日…尾道白樺美術館開館。初日 286 人が入館。開幕展「梅原龍三郎と白樺派」開催。▼平成 16 年（2004）…土地建物を尾道市へ寄贈。▼平成 18 年（2006）12 月…閉館して後事は尾道市に託すと吉井長三理事長が記者会見。▼平成 20 年（2008）4 月…市と市立美術館主催、尾道大学共催で「小林和作特別展」開催（会期 12 日）。同月 26 日より尾道大学美術学科による「買上作品展」開催。以降、「MOU 尾道白樺美術館」尾道大学」として尾道大学の管理運営となり、平成 24 年（2012）から現在の「尾道市立大学美術館」となる。

景観問題のふりだし

久保三丁目、尾道市立大学美術館の前身が、「尾道白樺美術館」であつたのも昔話になつてしまった感があります。以前に巻き起こった高層マンション建設計画と、歴史的景観を守る観点で民間有志が立ち上がり、それを阻止した経過については、更に遠い昔話となつてしまいました。

◆尾道白樺美術館から大学美術館へ

尾道市からの支援は得られなかったものの、同年十月、守る会は借入金によつて土地の買い取りを業者と調印し、ここに高層マンション建設計画は消えしました。この借入金は市外から差し伸べられた支援で、尾道と縁のある法人と個人の二件から、一億九千万円の貸付が得られるに至りました。

その後、守る会は財団法人化をして、まちづくりのセンター、総合研究所となる第三セクターによるシンクタンクを目指し、その拠点として取得した土地の活用を構想しましたが、この段階では実現しませんでした。

建設阻止で落ち着いた後も続く混乱した状況に助け舟を出したのが尾道市出身の吉井画廊社長・吉井長三氏で、吉井氏は自身が開館させた清春白樺美術館の姉妹館となる「尾道白樺美術館」設置を提案し、守る会は発展的解散後に同美術館建設推進委員会となつてこれを進めました。

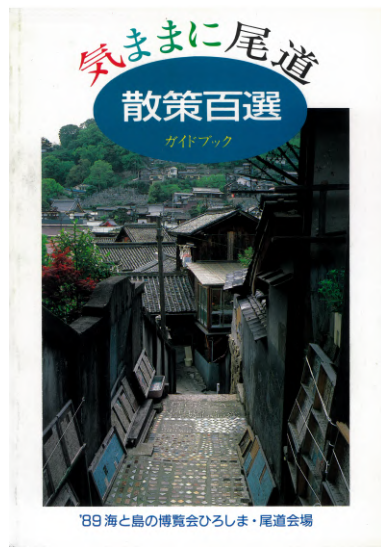
行政に頼らず民間の力だけで景観を守り、次いでその場所の利活用が模索された結果において、尾道白樺美術館が平成十二年（一九九九）に開館することとなりました。同十六年（二〇〇四）に守る会の代表であつた日暮兵士郎氏によつて土地が買い上げられ、建物と共に尾道市へ寄贈された後、同十八年（二〇〇六）に役目を終えたとして閉館。尾道市へ移り同二〇年（二〇〇八）より尾道大学美術学科による教育・研究プロジェクトとして企画運営され、今に至ります。

’89 海と島の博覧会ひろしま 尾道まるごとパビリオン

地方博覧会ブームに乗って、「海と島のグランドデザイン—輝く海と島と人」をテーマに平成元年の夏から秋にかけて開催されたのが海島博でした。広島市西区のメイン会場のほか県内各地の沿岸・島しょ部がサブ会場となり、尾道では展示館開設や各種イベントが展開されました。協賛企画の『気ままに尾道…散策百選』では、旧市街 100 か所、郊外 20 か所のスポットが公募により選定され、刊行されたガイドブックは増刷する売れ行きでした。



写真左：散策百選の一つにピックアップされた市役所前の啓文社倉庫（1989 年撮影）。海島博ではオノトピア館という展示館として利用された。現在はおのみち映画資料館。／写真右：1989 年 7 月 1 日発行『散策百選ガイドブック』。増刷を重ね、2004 年には 204 選で新版も作られた。



当時は合併以前の因島市と瀬戸田町も会場となり、因島では「フラワー・フルーツの島」をテーマに、主会場を因島フラワーセンター、イベント会場を大浜崎公園として開催されました。大浜崎公園のステージでは、女性ロックバンド・SHOW-YA（ショーヤ）のコンサートに二千人、酒井法子のコンサートに四千六百人が来場しました。

瀬戸田会場はパビリオンは設けられず、全国離島芸能祭やシンポジウムなどの大型イベントを会期中に展開する形式で行われ、海島博の公式記録によると、「これによって、ベル・カントホールとサンセットビーチが脚光を浴び、今後の瀬戸田町の発展にとって大きな財産を形成した」と総括されています。

【参考文献】『89 海と島の博覧会・ひろしま公式記録』財団法人 89 海と島の博覧会協会発行 中国新聞社編・1990 年刊。



因島会場では 9 月 17 日に来場 15 万人目を達成。傍らに海島博のマスコット・キャラクター「アビ丸」も見える。アビは広島県の鳥になる。



市制施行 100 周年を記念して市役所庁舎にイルミネーション点灯。1998 年撮影。



尾道市公会堂で開かれた市制施行 100 周年記念式典。1998 年 4 月 1 日撮影。

駅前再開発が進む最中の平成十年（一九九八）の春、尾道市は明治三十一年（一八九八）四月一日に市制を施行してから百年の時を迎えました。これを祝う百周年記念事業を「おのみち百祭」と銘打ち、同年四月一日から翌年の三月三十一日までの一年間、記念行事が市内各地で大小開催されました。



百周年と翌年の瀬戸内しまなみ海道開通のW記念として、大林宣彦監督による新尾道三部作となる「ふたり」、「あした」に続く完結作品の製作と、「尾道映画祭」開催の発起があつたのも着目されます。新尾道三部作のラストを飾る尾道映画「あ、夏の日」とんでろじいちゃん」は百周年の年の七月から八月にかけて御調、向島も含む市内と周辺で撮影が行われました（翌十一年の七月公開）。「尾道映画祭」については計画止まりで開催されなかつたようですが、平成二十九年から開かれる「尾道映画祭」の先駆的な話のようにも映ります。

主な百周年記念事業

◆全国各地の「尾道姓（尾道さん）」を募集し、十人を尾道観光大使に委嘱。◆「おのみち映像二〇〇年史・桜」制作◆尾道商工会議所の寄贈で街路灯設置◆NHK「のど自慢」尾道開催（県立びんご運動公園で開催）◆平成十年秋巡業大相撲尾道場所（県立びんご運動公園で開催）◆第3回北前船市町村長サミット（グリーンヒルホテル尾道・市内一円で開催）◆文学フェアイベント：尾道うず潮文学賞、講演会、展示（公会堂・市立図書館・共同福祉施設で開催）など。

尾道駅前地区第一種市街地再開発事業始まる

平成九年（一九九七）九月五日、尾道駅西側の旧貨物ヤード跡地において、再開発ビル（パブリック・尾道駅前マンションと商業テナント、市営駐車場からなる建物）北棟建設の起工式が行われ、尾道駅前地区第一種市街地再開発事業は本格始動しました。今に見る尾道駅前風景のふりだし地点であり、平成尾道史の前半中に見た大きな山場となる時が、この年から平成十二年（二〇〇〇）にかけて実施された駅前再開発の時でした。



尾道ウォーターフロントビル建設始まる。平成 8 年（1996）12 月撮影。



しまなみ交流館が建設される区画。平成 9 年（1997）11 月撮影。

駅前整備の嚆矢は昭和四十六年（一九七二）に市長として再登場した石原善三郎氏の構想に始まり、続く佐藤市政で建設省からの補助金を得て、基本構想と基本計画が作成されました。市役所内に担当部署として開発事業部再開発課が設置されたのは次の博田市政で、再開発ビルに入るテナント誘致については平成三年（一九九二）に始まります。福屋を含む百貨店三社からの出店希望があり、最終的に福屋以外が辞退して福屋を候補に交渉が進められました。

事業経過での思わぬ珍事としては北棟と国道の間の地盤強化と海水浸透防止に伴う追加工事で、平成九年の六月議会会期終盤になつて大幅な予算組み換えとなる補正予算が上程された事でした。その金額は約七億円の増額で、加えてしまなみ交流館建設も増床とらせん階段の設計変更により三億円の増額になり、計十億円という大幅超過が五月下旬の積算途中で判明します。そんなドタバタ劇も何とか乗り越えて、事業は予定通り前へ進んで行きました。



建設工事中の再開発ビル北棟。平成 10 年（1998）撮影。



復活した平成元年水祭り舞台より「浄土寺境内で足利尊氏と吉和太鼓踊り」の場面。
このほかに「牛若丸と弁慶」、「平山角左衛門の住吉浜築調」の3場面が作られた。

平成元年(一九八九)

半世紀ぶりに水祭り復活

尾道町内の夏祭りの一つに見られる水尾町内(住居表示では久保二丁目の内)に鎮座する熊野神社(通称・熊野権現)の例祭では、噴水のように水が噴き出す人形舞台が参詣者を楽しませ、「水祭り」の名で親しまれています。

神社自体は江戸時代前期に再興されたと伝えるほか、同所辺りにあつた時宗丹花寺の境内鎮守であつたことが記録文書から判明しています。

祭礼日は旧暦の六月二十四日で、幕末の生まれになる地元の文人・教育者であつた堀田翠峰が書き残した尾道町内の年中行事記録には、「鎮神小路熊野祭り(水細工アリ)」とあり、戦前の新聞記事では「権現祭」の名も確認され、平成元年に復活して「水祭り」として定着する以前にあつては、「熊野権現」の名を取つた祭りの名で周知されていたことが分かります。祭りの余興として名物となる水細工による人形舞台の登場については、明治時代の中頃にはその存在が確認されています。

昭和の戦争が始まると祭りどころではなくなり、各地で祭りの中止や縮小を余儀なくされましたが、熊野権現の祭礼でも、昭和十七年(一九四二)より水人形の舞台が消えることとなりました。

戦後になると、みなと祭を始め尾道町内の祭りも順次復興していきましたが、熊野権現例祭での人形舞台は戦後も復活することはありませんでした。それが甦るのが平成元年(一九八九)の夏―実に半世紀近くを経たの復活劇となりました。

昭和の終わり頃から町外の文化財関係者が復活の為に人形を試作するなど(町内伝承のものとは異なる)にわかに水祭り復活への烽火が上がりはじめ、同じく町内でも復活に向けての機運が醸成され、こうして昭和六十四年改め平成元年となった年に、「水祭り」の名で見事復活を果たした経過にあります。

復活二十年の節目を迎えた翌平成二十一年(二〇〇九)には、町内住民の減少と高齢化により、人形作りを止める声も上がりましたが、町内外の若手有志で一舞台のみ作られ、これを序幕に翌年から同有志で「水尾町の水祭りを守る会」が結成され、新たな形で再復活をして今に伝えられています。

『新尾道市史』全11巻ラインナップ

文化財編	上巻	販売中・二七〇〇円
資料編	近世	販売中・三〇〇〇円
地理編		
資料編	考古・古代・中世	
資料編	近代・現代	
文化財編	下巻	
通史編	近世	
通史編	近代	
通史編	原始・古代・中世	
民俗編		
通史編	現代	

市制施行120周年にあたる平成30年度(2018)をふりだしに、令和10年度(2028)までの11年計画で、新市域を網羅した新尾道市史を随時刊行して参ります。

尾道に関する資料求む！

尾道に関する文書(文字資料)、写真、映像、地図、尾道的话题を報じる新聞・雑誌、尾道関係の図書など、市史編さん委員会事務局及び文化振興課では、幅広い分野にまたがり、史資料の収集に努めています。他に地域に伝わる言い伝え(昔話)や風習、祭礼、芸能など、無形のものも対象となります。資料・情報の提供については文化財係または下記事務局までご連絡ください。
受付時間は平日8:30～17:15
電話:0848-20-7425(文化財係)

編集後記
ついこの間のように見えて、遠ざかる過去の一時代になった平成。昭和懐古に続いて平成も懐かしまれるようになり、若者間では平成レトロに注目が集まっているようです。平成尾道もふり返ると様々な出来事やドラマがありました。全四回シリーズで、次回はいまなみ海道開通などを取り上げます。